

医学部

白書一九九三と  
個人別研究業績集を刊行



医学部  
自己点検・評価委員会  
委員長  
魚住徹

(一) 自己点検・評価の原点

「発刊の辞」に医学部長、医学系研究科長原田康夫教授（現学長）が記されているように、「博愛の精神に基づき病者の心身を治療し、更に健康の一層の増進を図るために、医療者を育成・錬磨し、かつ、高度の研究を維持・発展して社会に還元することが広島大学医学部（医学科、総合薬学科及び保健学科）並びに医学系研究科の使命である。その目的達成のため、常に自己点検・評価が必要であることは言をまたない。」という精神が自己点検・評価の出発点でありまた帰着点でもある。

(二) 基本方針

医学部自己点検・評価委員会は、「教育研究整備基本計画検討特別委員会答申」及び「広島大学自己点検・評価実施に関する事項」を基に、個人単位（教員、職員、学生）並びに組織単位（医学部）における自己点検・評価項目を整理し、これからの点検・評価の在り方について検討した。その結果、

- (1) 個人単位の自己点検・評価項目、特に教員の研究活動、学会活動・学外活動への参加等についてはできるだけ早期にその実態調査に着手する。(2) 組織単位の自己点検・評価項目については、関係する構成員の参加のもとに、点検・評価し、改革に結び付けるのが望ましい。(3) そのためには、自己点検・評価はできるだけ医学部に設置されている各種委員会活動の一環として位置付けるのが良い、という結論に達した。
- (三) 調査検討方法  
基本方針に則り以下の六種類の調査を行った。
- (1) 教員の個人別研究業績
  - (2) 教員の個人別社会活動等
  - (3) 委員会活動に関する調査
  - (4) 自治会活動等
  - (5) 講座・部門別研究活動
  - (6) その他既存資料等
- (四) 主要項目に関する点検・評価  
以下の八項目についてまとめられた。
- (1) 医学部の理念・目標及び将来構想
  - (2) 医学系研究科の理念・目標及び将来構想

来構想

- (3) 教育活動の実態と課題
  - (4) 研究活動の実態と課題
  - (5) 社会活動への参加
  - (6) 各種委員会活動等
  - (7) 自治会活動等
  - (8) 学生生活の実態とこれからの課題
- (五) これからの対応についての提言  
今回の自己点検・評価の結果に立脚し、今後の自己点検・評価活動の位置付けと意義をも包含し、以下の七項目に関して提言を行った。
- (1) 学部・学科及び医学系研究科の理念・目標・使命の明確化
  - (2) 教育・研究体制と管理・運営
  - (3) 学部教育
  - (4) 大学院の教育・研究
  - (5) 研究活動
  - (6) 学生生活
  - (7) その他

廃止し、残り四十委員会を関連性を考えて統合し、十委員会(1)倫理委員会、(2)総務委員会、(3)教育委員会、(4)書情報・広報委員会、(5)国際交流委員会、(6)附属施設等管理委員会、(7)医学部・医学部附属病院防災対策委員会、(8)点検・評価・将来計画委員会、(9)人事委員会、及び(10)地域医療委員会とする、というのも提言の一つである。このように目的の明確化と運営の機能化を図る方途を具体的に示して提言し教授会に答申した。

(六) 今後の自己点検・評価とその運用  
今回の点検・評価の作業は医学部自己点検・評価委員会が個人別、組織別及び全体について主動的に行った。しかし、今後の方向としては、元来、自己点検・評価は構成員各個人、各委員会、各組織で常に行うべきものであつて、それに基づき構成各単位の将来計画を立てるのが本来の姿である、と委員会は考えた。更に全体としての方向付けに関しては、「点検・評価・将来計画委員会」が、教授会の諮問の下に点検・評価資料を統合して策定した将来計画を教授会に答申するのが妥当であろうと委員会は考えている。

あとがき  
自己点検・評価が単なる反省に終わってはならない。点検し、評価した結果をどのように活用するかが問われているのであり、又、それを繰り返す行いが最も重要な点であると本委員会は結論した訳である。